

付けたい力を明確にした授業

「まとめ」から「めあて」をつくる5ステップ

ステップ①

教科等・学年の目標(ねらい)を把握する。

学習指導要領解説

ステップ②

単元の目標(ねらい)を把握する。

北九州スタンダード
カリキュラム

ステップ③

評価規準を基に、本時のねらいを確認する。

北九州スタンダード
カリキュラム

ステップ④

本時の「まとめ」を考える。

子どもの言葉で

ステップ⑤

本時の「めあて」を考える。

子どもの言葉で

その授業で付けたい力が明確になる！ = 授業の骨組みができる！

5ステップで、「本時のねらい」⇔「まとめ」⇔「めあて」を
整合させることが大切です。



一人一人の学びを確かなものにする授業

一人一人の子どもが自ら書く「まとめ」

◇ 一人一人が「まとめ」を書くことで…

① 子どもが「何を」学んだかはっきりと自覚することができる！

② 子どもの思考力・判断力・表現力等を育てることができる！

③ 教師が「ねらい」を達成できたか評価することができる！

◇ 一人一人が「まとめ」を書くことができるようにするには…

・子どもの意識が「めあて」から「まとめ」までつながる授業展開
・本時のポイントやキーワードを明確にした板書 が大切です。



問題 次の連立方程式を加減法を用いて解きなさい。

$$(1) \begin{cases} 2x+4y=8 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$$

教科書 次の連立方程式を加減法を用いて解きなさい。

P.40 例2
$$\begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$$

xの係数を2にそろえた

(2)が解けない理由…x, yの係数がそろっていないから。

①の両辺を2倍

$$\begin{aligned} & \text{①} \times 2 \text{より} & 2x+4y=8 & \dots\text{①}' \\ & & 2x+3y=5 & \dots\text{②} \\ & \text{①}' - \text{②} \text{より} & & y=3 & \dots\text{③} \end{aligned}$$

めあて 等式の性質を利用して係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。

$$\begin{aligned} & \text{③を①に代入して} \\ & x+2 \times 3=4 \\ & x+6=4 \\ & x=4-6 \\ & x=-2 \end{aligned}$$

見直し

【1班】
①を2倍すればいい。

【2班】
①×2より
$$\begin{aligned} 2x+4y &= 8 \\ -2x+3y &= 5 \\ \hline y &= 3 \end{aligned}$$

で解ける。

【3班】
(1)しか解けない。

【4班】
解けるけど、説明できない。

【5班】
①×2で(1)と同じ式をつくらばいい。

【6班】
$$\begin{aligned} x+2y &= 4 \\ \times 2 & \times 2 \\ \hline 2x+4y &= 8 \end{aligned}$$

まとめ よって(x, y)=(-2, 3)

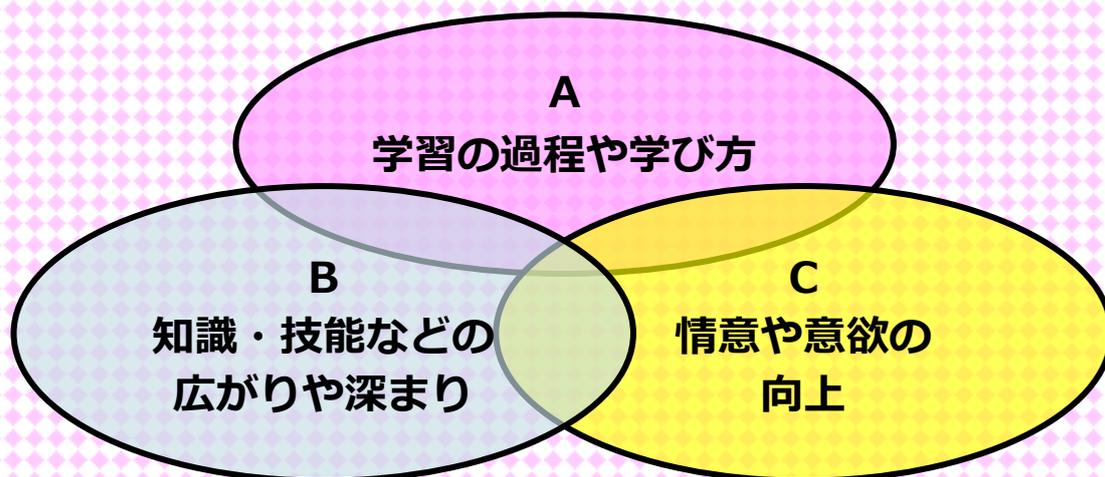
係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数の絶対値をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。

小中9年間を通して、すべての学級、すべての教科において一人一人に「まとめ」を書かせる指導を、段階的・継続的に行いましょう。大切なことは、学校全体でベクトルをそろえて取り組むことです。



「振り返り」の3つの視点と具体的な指示

◇ 「振り返り」の3つの視点



◇ 「振り返り」の3つの視点と具体的な指示の例

A 学習の過程や学び方

「最もためになったアドバイスと、その理由を書きましょう。」
「今日の学習がよく分かった（分からなかった）理由を書きましょう。」
「今日の実験で、最もがんばっていた友達とその理由を書きましょう。」

B 知識・技能などの広がりや深まり

「今日一番の『なるほど！』と、その理由を書きましょう。」
「今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう。」
「『つまり』、『例えば』という言葉を使って、今日の学習をまとめましょう。」

C 情意や意欲の向上

「今日の学習で、新たに生まれた課題や疑問を書きましょう。」
「学習前と学習後の自分を比べて成長・変化したことを書きましょう。」
「次の学習で、やってみたいことを書きましょう。」

1時間の授業で、A・B・Cのどの視点について振り返らせ、具体的にどのような指示を出すのか構想することが大切です。



授業構想シート (学校 年) 【単元名】「 」 (時間 / 全 時間)

■本単元のねらい

<本時のねらい> ※ めざす生徒の姿

○

【まとめ】 ※ <ねらい>を生徒の言葉で

【めあて】 ※ まとめとの整合性 生徒の言葉で

【めあて】を生み出す働きかけ

【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的な学び

○

【手だて】

○

【支援を要する生徒への手だて】

○

【手だて】

【振り返り】

板書計画

授業構想シート (中2年)【単元名】「連立方程式」(4時間/全14時間)

■本単元のねらい

- ・ 数量の関係を2つの文字を用いて等式に表し、これを目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立方程式の解法について理解と習熟を図り、連立方程式を用いて問題解決する能力を養う。
- ・ 連立方程式の解法の要点である「1つの文字を消去して、一元一次方程式を導く」ことを繰り返し行わせるとともに、生徒の興味・関心が高まるような身近な課題を取り上げるなどして、連立方程式の有用性を実感できるようにする。

学習指導要領解説や北九州スタンダードカリキュラム等を参考に設定。

<本時のねらい> ※ めざす生徒の姿

評価規準を基に設定。

- 加減法で連立方程式を解くためには、消去する文字の係数の絶対値をそろえる必要があることに気付くことができるようにする。

【まとめ】 ※ <ねらい>を生徒の言葉で

<ねらい>と一致した「まとめ」になっているか。

係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。



【めあて】 ※ まとめとの整合性 生徒の言葉で

「まとめ」に向かう「めあて」になっているか。

等式の性質を利用して係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。



【めあて】を生み出す働きかけ



【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的な学び

問題意識をもたせる活動になっているか。

【手だて】

【支援を要する生徒への手だて】

【手だて】

【振り返り】

板書計画